

CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 【特集】古き学び舎は語る 希望に向かって進めと
- 8 奥州の冬祭 グラフ
- 9 育てよう元気の芽
図書館だより特別編
- 10 奥州の市民劇 グラフ
- 12 I L C希望のひかり
- 13 大使の横顔 Oshu Ambassador
- 14 まちの話題
- 15 市政ズームイン
- 16 夢トーク
青春讃歌
- 17 雨の日も晴れの日も
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 18 我が家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 19 おうしゅう こそんぽ
姉妹都市 掛川だより
- 20 情報あらかると
- 24 奥州遺産

キラリ輝く 奥州人

英語を楽しく学べる 時間と空間を提供

阿部美咲さん（37歳）
胆沢区若柳字堰袋



カードなどの教材を使いながら楽しく英語に触れていく

「ハローー」。父母に送られてやってくる子どもたちが元気にあいさつを交わす。ここは阿部美咲さんの英語教室だ。小学4年生で奥州市の父の実家に引っ越した美咲さん。その頃から興味を持ち始め、中高で唯一の得意科目と言えたのが英語だった。大学で英語教諭の免許を取得したものの「仕事にするまでの自信はない」といったんはサービス業に就職。しかし、25歳で語学留学したカナダで幼児英語教育に触れ、考えが変わった。「楽しみながら学ばせる方

法を知り、やりたい」と思った」という美咲さんは、英語教育の道に進むことを決意。帰国後、英語教室を経営する県外の会社で講師として就職し、技術やノウハウを学んだ。東日本大震災の年に「地元に戻ってできることがあれば」と帰郷。同年9月に生徒2人でスタートした英語教室は、口コミで評判が広がり、約40人が通うまでになった。「私も勉強しながら、より良い経験をさせてあげたい」と語る美咲さんは、子どもたちと笑顔の花を咲かせていく。



あべ・みさき◎昭和55年、一関市生まれ。市内の認定こども園に保育補助として勤めながら、自宅で週5日「子どもの英語教室」を開く。現在は、絵本をたくさん読んで英語に触れる“多読”に力を入れる



子どもから大人まで、おやつ好きな人が集う大好評イベント「奥州 食の黄金文化祭2017 おやつフェスティバル」が2月11日、プラザイン水沢で開催されました。会場に広がるおやつの香りが訪れた人たちの食欲をそそり、さまざまな色彩がその目を奪います。

写真は、えさしふれあい工房の出店ブース。江刺産りんごを乾燥させて作ったおやつは、りんご本来の甘さが際立ちます。「試食してみて！ どう、おいしい？」そんな声が聞こえてきそうです。

【イベントの内容は9ページに掲載】

〈今月の表紙〉

古き学び舎は語る 希望に向かって進めと

胆沢区の中学教育は、小山・南都田・若柳の旧村単位の三つの中学校により、小規模ならではの特性が生かされた教育活動が展開されてきました。ここでは、多くの卒業生を輩出し、数々の歴史と伝統が刻まれた古き校舎の思い出と、3校統合により誕生する新しい中学校への希望の声を紹介します。



小山中学校



南都田中学校



若柳中学校

戦後間もない昭和22年、学制改革により小山村、南都田村、若柳村それぞれに創立した胆沢の3中学校。社会情勢が急速に変化した70年の年月の中、さまざまな教育課題を解決していくため、教育の見直しと改善を進めてきました。3校のいまある校舎は昭和50年前後に建築。その後、校庭や体育館、プール、柔道場が整備され、多くの生徒や教師、保護者をつなぎ、40年間の長きにわたり地域の活動拠点の一つとして活用されてきました。

市は、総合計画基本構想の施策の大綱で「未来を拓く人を育てる学びのまちづくり」を掲げ、まちづくりに熱意と情熱を持って参画する人材の育成を進めています。3校が統合する「胆沢中学校」は、生徒たちがこれからの社会を担うために必要な「確かな学力」「豊かな人間性」「たくましく生きるための健康・体力」などの生きる力の育成と、老朽化や少子化などに対応し、本年4月に開校します。